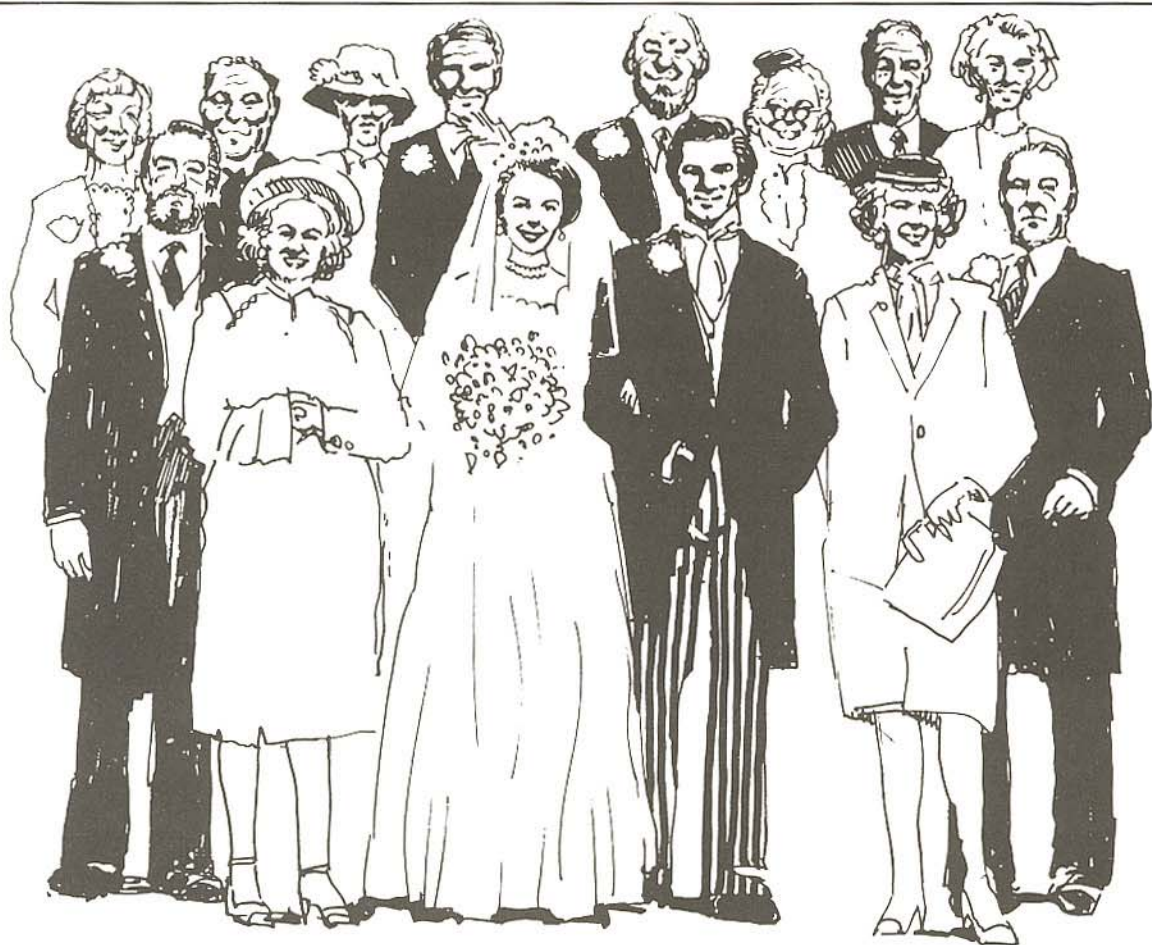


# 生活新聞

VOL.4 NO.14 1984

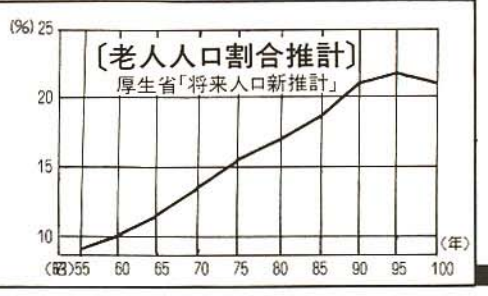
博報堂生活総合研究所

# 10・30

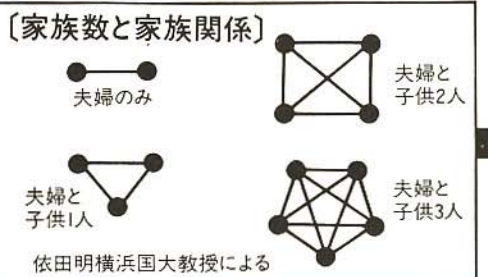


# TAROの時代

にぶんのよんしゃかい 4/2社会
昭和55年には、7.6人の働き手が1人の老人を支えているのに対し、昭和100年には、2.6人の働き手が支えることになる『日本の将来推計人口』(厚生省)。



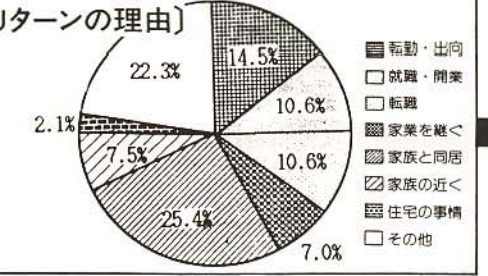
レースレス
右の図は子供の数による関係軸の数の推移である。子供の数が多ければ多いほど、家族内での関係が複雑になる。



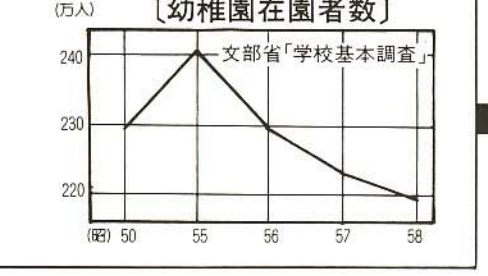
きりばっこ 桐箱っ子
昔「箱入り」といえば主として娘のことであった。それが今は「箱入り息子」といっても全くおかしくない。

長男・長女は家の中では姉妹にもまれていないし、近所のガキ大将に率いられたルールも、子供のケンカに親が出てくる時代の前には消滅した。

ブーメランリクルート
Uターン理由を調べたのが右のグラフである。やはり家族(親たち)との同居のためというのが最も多い。



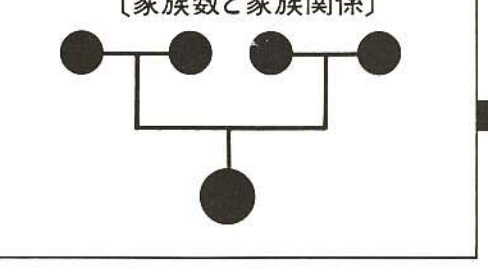
おすなばとうさん お砂場倒産
子供の数が減ってくると、まず一番最初に影響を受けるのが赤ちゃん産業である。



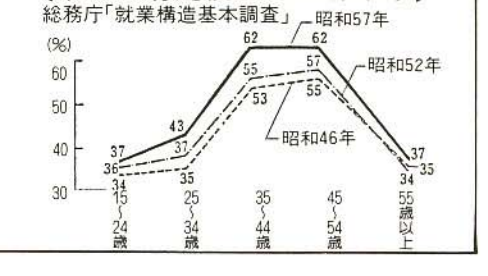
こどもかちよう 子供家長
家庭から家長が消え、子供中心の家族像となった。昔は家長のお膳には特別の一品が添えられていたが、今は食事の献立もお子さまランチ的にハンバーグやスパゲッティの登板回数が増えた。

得が減少しヤリクリに頭を悩ませつつ、家革(家政改革)を断行する主婦たちにとっても、子供に関する出費は未だに家計の「聖域」である。

はっけつびよう 薄血病
一人っ子の長男長女が増えると人口の縮小再生産となる。しかも図のように、一人っ子家族が2代続くと自分の兄弟姉妹はおろか、おじ、おば、いとこという血縁関係が全くない子供が登場する。



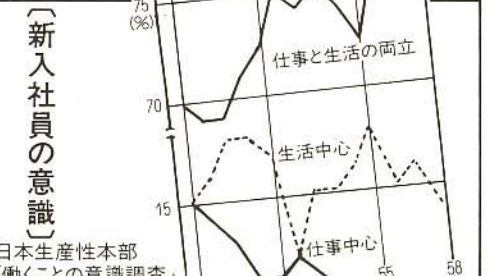
めいしま 名刺ママ
子育てに追われた昔と違って、自分の一生の基本プランを持つ母親が多くなった。自分の仕事と両立させる出産計画や子供の手が離れるのを待っての社会復帰計画である。



たいじゅがさ 大樹傘
家庭内での競争も少く、両親の厚い庇護のもとに育った長男長女達は、社会に出ても摩擦を好まない。

向の裏には、こうした長男長女化社会の存在も寄与しているのである。転職しつづけるサラリーマンや結婚しつづける女の増加の背後には、彼らに対して大きな影響力を持つ「親」という大樹が控えている。

こうしゅうごう 公私融合
規律を守り言われたことはそつなくこなした職場への適応が高いが、覇気や冒険心に欠ける。



パルコポリス
都会で学生生活を送った若者がUターンした時、不満を抱く要素で大きいのは、「交通の便」「買物の便」「娯楽施設・機会」の三つである。

度ショッピングやタウンをわめる人達が続々とUターンしてくるというのだ。従って長男長女社会が進めば進むほど、地方の都会化も進む可能性が高くなる。

なえしろがり 苗代刈り
TAROは成長する。今の幼稚園児は15年後には大学生になる。お砂場倒産から大学倒産へと影響は移っていく。

では絶対数が望めない。必然的に大人を相手にマーケット戦略を考えねばならなくなる。

おとななみ 大人並み
弟妹へのお下がりというところがない長男長女用品だから、一定時期だけの使い捨てという考え方もある。



あめーばだいかぞく アメーバ大家族
血縁が薄いからこそ、少ない親類が密接なつながりを持つとする。

地や住宅をシェアしあうもの)だ。既に季節行事を複数の友人家族と共同で賑やかにこなしたり、子供に購入した大人並み商品を買ったママ同士のネットワークで融通し合ったりは盛んになっている。

に増えていくに従って、変化を嫌う彼等、彼女等によって社会は保守化していくかもしれない。

ポストゲートボール
今、老人達の娯楽・スポーツの代表はゲートボールである。しかしゲートボールをやっている人達をみると、ゲートボール以前に本格的にスポーツをした人は少そうだ。

アンノンバアチャン
国鉄のフルムーン企画が成功している。合計88歳の夫婦が旅に出る。それに続いてアンノン・ノン育ちのフルムーン予備軍が控えている。

なんかにど吹く風、「ウッソー」「ホントー」のギャル達がオバアチャンの仲間入りをするのもそう遠いことではない。

だいさんじさんぎよう 代参産業
とめたり、親孝行をする親孝行代理業、還暦や喜寿などの祝いパーティーのセッティング業や演出サービス、人暮しの老人のための買い物代行業など、普段の生活から暗れの生活まで応用範囲は広い。

とめたり、親孝行をする親孝行代理業、還暦や喜寿などの祝いパーティーのセッティング業や演出サービス、人暮しの老人のための買い物代行業など、普段の生活から暗れの生活まで応用範囲は広い。



ままかり ママ借り
子供の数が減ったからといって母親の役割が減少するわけではない。むしろ少ない分だけ十二分に心もお金も子供に注げる。

た。そこで働くママに成り代わって有料で育児や家事をしてくれる代理ママが登場する。

おやしらず 親知らず
今、種々の問題で家族が揺れている。もちろん家族問題の原因は子供数の減少だけではない。

しあって放任や無関心になりすぎるということもあるだろう。まして親自身が1人っ子で育っていると、弟妹にたいする両親の姿を見ながら、知らず知らず親子育のノウハウ・テクニックを学ぶということもなかったわけだ。

じりつりこん 自立離婚
結婚してから10年以上たった夫婦の離婚が増えている。年齢別離婚率では30代後半から40代の伸びが高い。

家制度が衰退し、子供は家の跡取りという意識が薄れるにつれて母親が子供を引き取るケースが増え、56年には子連れ離婚の10人中7人にのぼる。



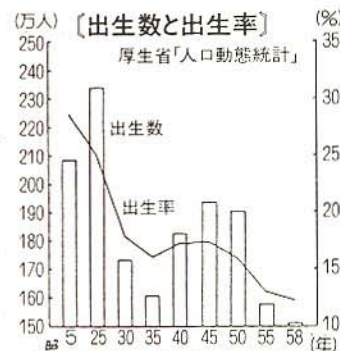
## Approach

現在の世界人口は48億人。今後の人口増加率が過去10年の1.7%からさらに低下しても今世紀末には61億人に達するという試算もある。発展途上の人口爆発も、先進諸国における出生率の低下及び高齢化も、いずれも多くの社会的問題となっている。日本は短期間に世界に例のないテンポの速さで、欧米型の若少高多の人口構成

に追い付き追い越そうとしている。若少、すなわち、子供の数の減少である。単に一大家族の中で家族関係の変化にとどまらず、社会的な影響は極めて大きい。何故、長男(代表名はTARO)と長女(同じくHANAKO)の時代となったのか、そしてTAROとHANAKOの成長につれて、今後どんな波紋が広がって行くのかを探ってみた。

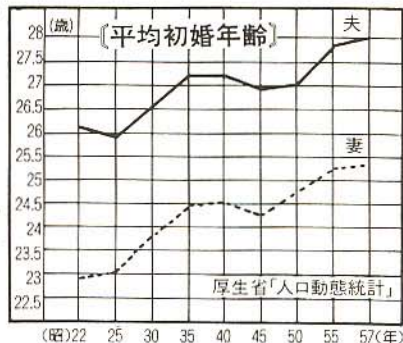
## Birth

第一子の8割は結婚後2年以内に生まれる。つまり出生数の増減を直接左右するのは結婚数の変化だ。昭和48年に567万人いた22~26歳の女性人口は、最大の人口集団である新中年が結婚期を通過してしまつた57年には388万人まで減少している。加えて晩婚化の影響もある。結婚する人が減れば2年のタイムラグで生まれる子供数も減るのだ。

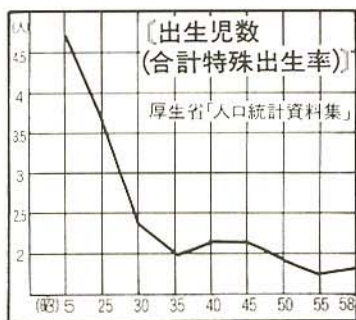


## Bridal

結婚適齢期という言葉が死語化しつつあり、結婚しない女まで続々登場とあって初婚年齢は上昇の一途である。今、平均は25.3歳。とすれば初めての子を生む年齢も上がりがあたりまえ。従って子供の数も抑えぎみになるのも当然という訳だ。



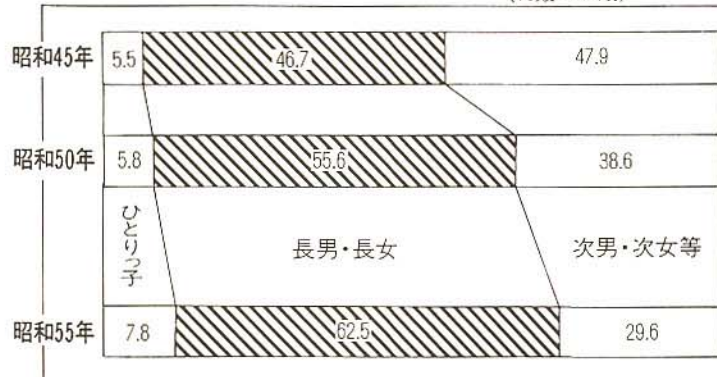
## Child



出産適齢期の女性が減少すると共に、女性一人当たり平均の生涯に産む子供数も減ってきている。最近の10年間では夫婦二人で二人以下の子供という状態が続いている。当然一人っ子ないし長男長女の割合が増加する。この状態が長期的に続くとも世代が交替する毎に人口は縮小再生産となる。

## 【長男・長女割合】

(15歳~24歳)

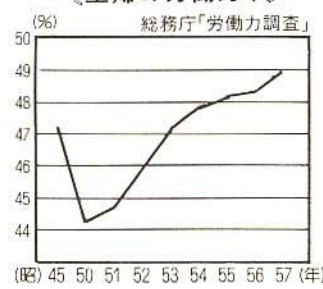


「現代の青少年」総務庁

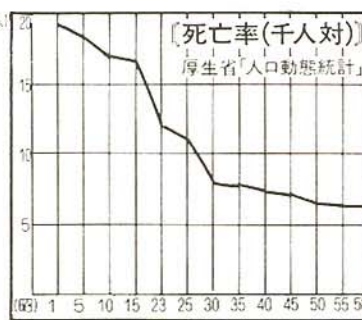
## Career

「奥さん」から「外さん」へと主婦が変わっている。その中でも働きに出る主婦は毎年増えつつある。保育所やベビーホテルがあるとはいえ、余り多く子供がいては主婦は外に出られない。いきおい、子供数は減る結果となる。まだまだ主婦の外出傾向は減るきざしを見せないから、この面からは子供数の上昇は見込めないだろう。

## 【主婦の労働力率】



## Death

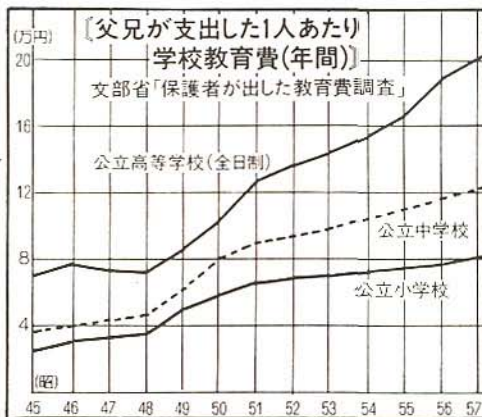


戦前は乳幼児の死亡率が非常に高く、子供を無事に育て上げるのは大変なことだった。跡取りや労働力確保のためにも子沢山になってしまう。生活水準の上昇、医療技術の向上、保険制度の充実等々により死亡率が低下した今、子供は少なく産んで、その分、手をかける子育てが可能となった。

## Education

小学校から高校までを通じて、直接家計から出ていく教育費は上昇の一途である。加えて塾や教室など、間接的な出費も増える一方だ。当然、多くの子供がいては高等教育までいくのは無理なる。少子時代に夢を託して、教育に投資する。

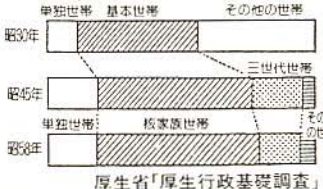
勉強だけでなく、音楽やスポーツなどに子供をかり立てる新教育ママやパパも増えている。今や、投資なくては良い結果が望めない。かくて子供数はしぼられる訳だ。



大家族制では子供の面倒を見る手が多い。戦後の核家族化によって育児は母親の専売特許になってしまった。商家ならいざ知らず、普通家庭の場合は、子供が少さうちは母は外に出られない。いきおい、早く育てあげてしまおうとする母が増える。事実末子が小学校に入学するとホッと一段落と感じる母が多い。

こうして核家族世帯では生れる子供の数が限られてしまう。少子子供を早く育てあげて母はまた外に出ていくのである。

## 【家族構成の変化】

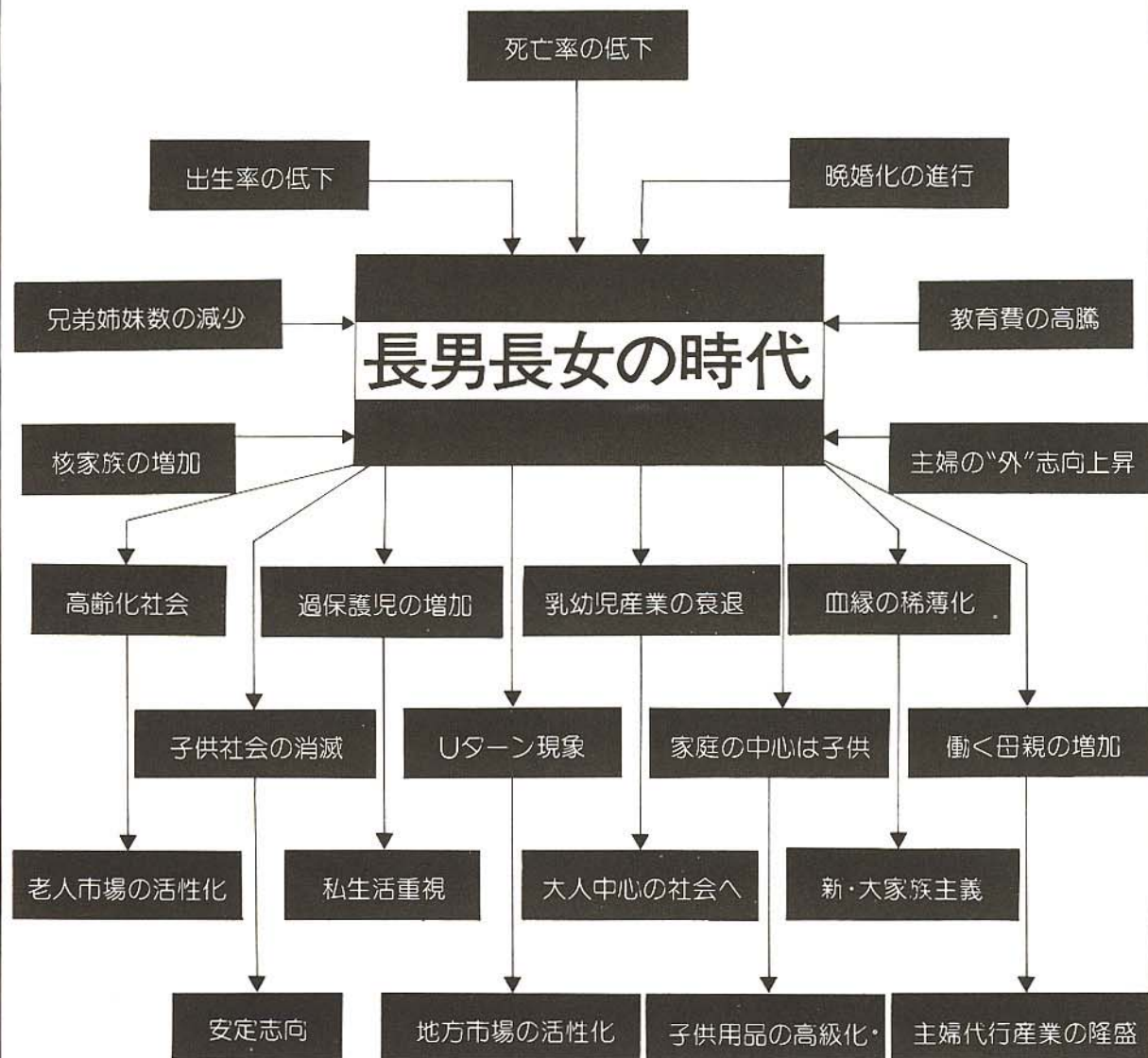


● 一組の夫婦が生む子供の数が少なくなると、必然的に生れた子供には長男長女が増える。一人っ子はもちろんのこと二人っ子でも性別が違えば二人は長男長女。中央のグラフが示す長男長女は今、六割を越えた。もっと下の子になると8割近くにもなるという。その原因を探ってみると...

# TARO'S ABC



# TARO'S IMPACT



## ●生活四季報 '84秋号が発刊されました!!

今回は、四季報の原点に帰って、主婦の買い物行動に焦点をあてています。主婦300人の買い物調査とグループインタビューから、今、主婦の頭の中にはお店の地図が出来ることがわかりました。ですから題して「ストア・マッピング」—売り場から買い場へ、です。図表やグラフの他、多数のキーワードも満載です。黄金色の四季報、ぜひご一読を!……